

第2回 各務原市ケアプラン向上研修会 アンケート結果

平成27年7月28日

参加者 127名

アンケート回収 118名（回答率 92.9%）

アンケート調査項目

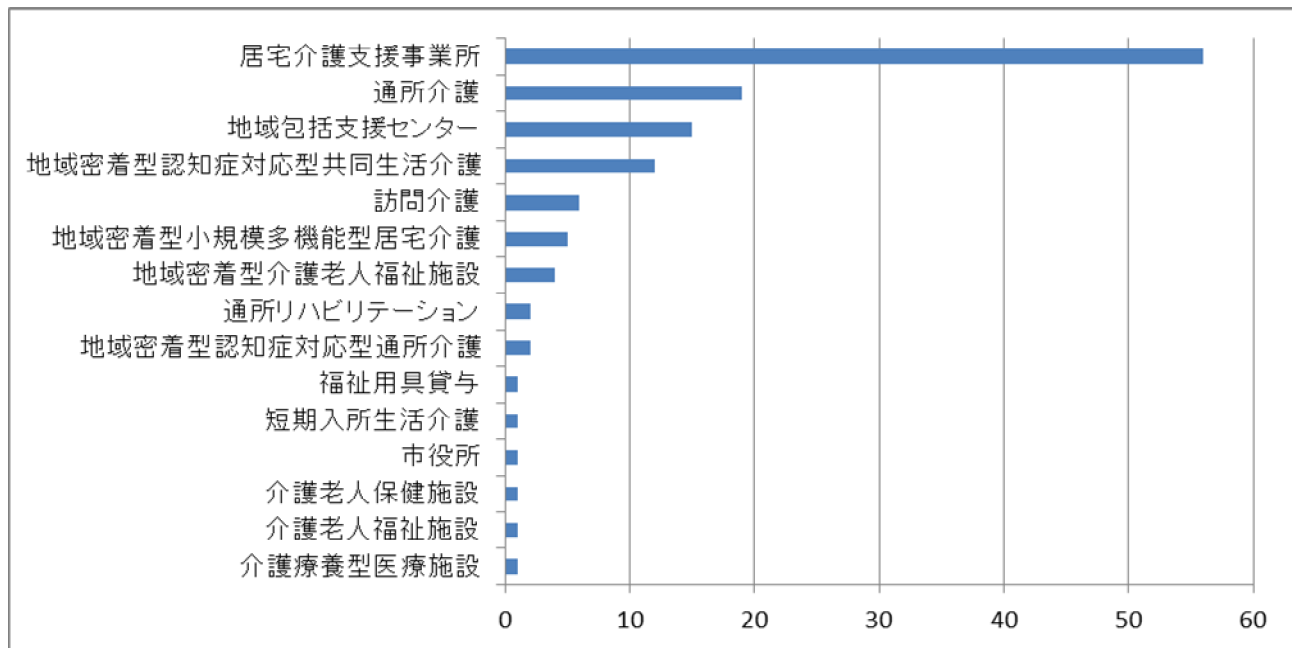
- ・研修における理解度
- ・多職種間の話し合いで良かった点
- ・研修会を通じた気づき、今後取り組みたいこと
- ・その他の意見

アンケート結果を受けた総括

- ◎ 実際にグループワークを行い事例検討することによって、多職種連携の重要性や必要性が理解できた。
- ◎ 今回の事例のキーワードが「利用者家族への支援」であったため、家族との関わり方について、参加者自身が見直すきっかけとなったのではないか。

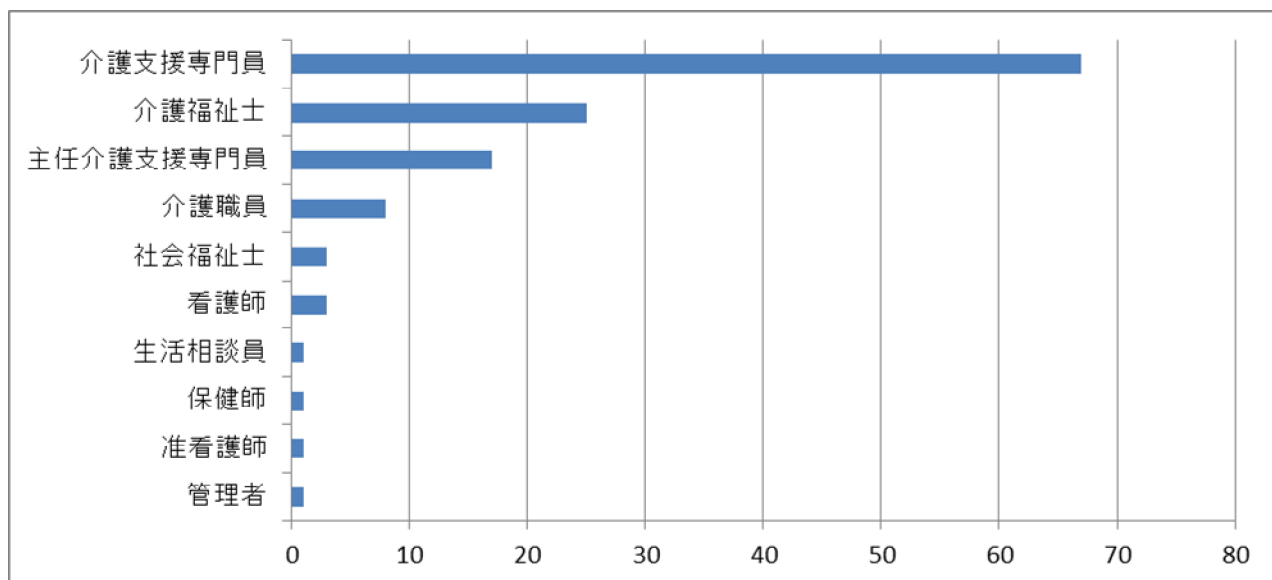
○ 参加者について

サービス種別



⇒居宅介護支援事業所からの参加者が、127名中56名であり、全体の44パーセントを占めている。

職種別

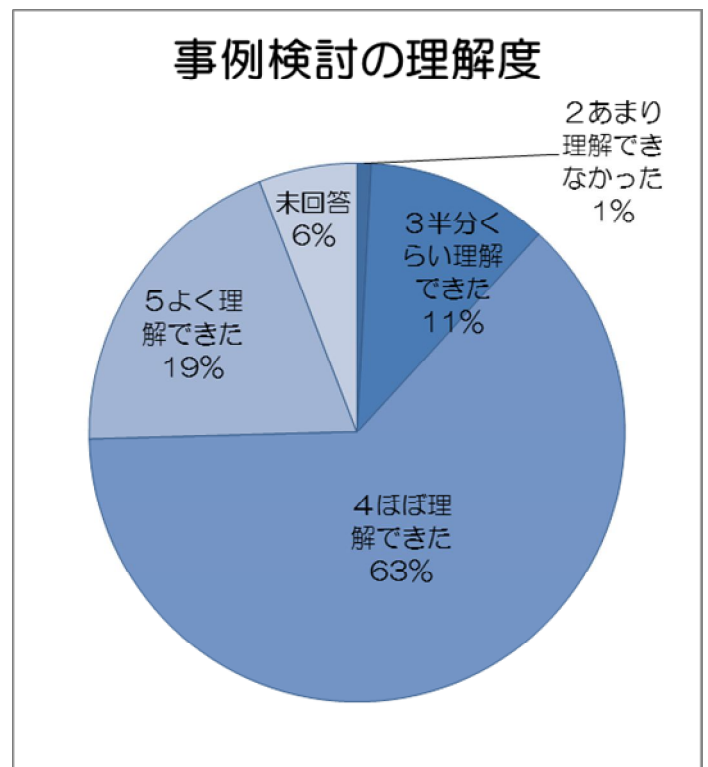


⇒介護支援専門員の参加者が、127名中67名であり、全体の53パーセントを占めている。

I. 本日の演習（事例検討）の理解度について

| | |
|----------------|----|
| 1 ほとんど理解できなかった | 0 |
| 2 あまり理解できなかった | 1 |
| 3 半分くらい理解できた | 13 |
| 4 ほぼ理解できた | 74 |
| 5 よく理解できた | 23 |
| 未回答 | 7 |

(単位：人)



よく理解できた、ほぼ理解できたという人が全体の82パーセントであった。この結果から、参加者のレベルに適した研修会となったといえる。

II. 多職種間の話し合いで、良かった点を記入してください。

・いろいろな角度や視点から意見が聞けた。(他67人)

☆ 学び

- ・まだ自分が経験していないことを、この事例を通して勉強できた。
- ・他の人の意見を聞いているうちに、自分なりの考えが浮かんできた。
- ・自分の知識だけでは分からないところを聞きながら事例検討を行って、新しく勉強になりました。
- ・現場で問題となっていることが、ケアプランの内容だけでなく介護者との関わり方も問題となることがある。
- ・関わり方の共通認識、成功例、失敗例を事業所側で連携することで、良いかわりが持てる。
- ・自分だけでこうすると良いのでは、と思っていた内容も皆で話し合うことで今回の事例研究のグループワークのように様々な細かい解決策が見えてくるのが分かった。
- ・知識として生かせるような意見もあり、自分が気づけなかった、また、知らなかった施設の状況など知ることができた。

☆ 多職種交流を通して

- ・それぞれの事業所が試行錯誤しながら、利用者をよりよく支援しようとしていることが分かりました。
- ・通所介護が利用者との連携が取れているのではないかと思います。

- ・現場が苦慮され対応がなされていることがさらに理解できた。
- ・それぞれの視点があり、気づくことが違ったりする。それを知ることが出来ると、何か違った関わり方も出来るのではないかと分かった。
- ・在宅での生活においての横のつながりの大切さについて考えることができた。
- ・通所の送迎の際、家族とのかかわり方で気をつけていることや包括の立場での話が聞けた。
- ・他の施設の取り組みが具体的に分かった。
- ・デイサービスで実際困っている具体的なことが聞けた。
- ・ケアマネの立場、現場での立場での利用者のかかわりでいつも起きている事や、在宅施設の違いにおける困りごとの違いが分かり、良かったです。
- ・他の職種の方でも自分と同じように悩んでいる部分があることを知れた。
- ・各事業所での過去のケース等を基にいろいろな視点での意見交換が出来た。
- ・ケアマネや通所等、それぞれが出来ることを目標に向かっていくことが大事であることを感じた。

☆ その他

グループワークについてはなかなか全員から活発な意見が出てこなかった。

多職種間で話し合いをすることによって、新たな知識が増える機会となり、参加者自身の考え方にも変化が生じるきっかけとなった。そして、自分とは異なる職種への理解が深まった。

Ⅲ. 本日の研修で気づいたことや、今後取り組んでみたいことを記入してください。

☆ 利用者・家族へのかかわり

<気づき>

- ・利用者それぞれに背景があり、現時点の状態だけでは物事を判断していけないと思った。
- ・信頼関係はすぐに築けるものではなく、年月をかけて築けるものだと改めて気づいた。
- ・介護している人の話を良く聞くことの大切さ。
- ・様々な問題はあっても在宅で生活できているのであれば、長期的な視野でもって利用者様と関わっていくことが大切だと思った。
- ・受け取る情報だけでなく、相互に顔を合わせて話をするのが大切だと思う。
- ・家族へのねぎらい、家族に対して「大丈夫」「よくがんばりましたね」など気持ちを共有してあげる
- ・紙媒体ではなく話し合うことによって支援等が発展していきな、というのが率直な感想である。
- ・利用者には、それぞれ長い歴史があり、時間をかけて解決していく必要がある。
- ・コミュニケーションは何より大切にしなければいけないことを月日が過ぎると忘れてしまいがちになるが改めてどの現場でも大切だと思いました。
- ・答えが出なくても良い。

<今後>

- ・本人だけでなく、家族のフォローをしていければと思います。
- ・リアクションにはわけがあるということ認識し、ご家族とじっくり関わっていくこと。
- ・家族（介護者）の思いを引き出して受け入れる姿勢で対話したい。
- ・近年、家族さんよりの苦情が多いと思います。日ごろから、家族さんとの関係を築いていけたらと思います。
- ・ご家族に対して、共感、感謝を伝えていかなければならないと改めて感じた。
- ・家族の方への支援が今後のケアプランにも入り込んでくると思われる。
- ・介護者に対するケアを忘れがち。見直してみたい。
- ・介護者のケア（特に老老介護）をじっくり考えてみたいと思う。
- ・自分が苦手だと感じたときにでも、足を運び直接会ってコミュニケーションをとっていきたい。
- ・ご家族とも、たわいのない話などしながら、利用者様のことを伝えていきたいと思う。
- ・家族関係は、ケースごとに様々。言葉かけも、相手の状況を考えてできるようにしたい。
- ・Aさんのみのケアプランではなく、家族も考慮し、コミュニケーションを深めることで真のニーズが見つかると思う。

利用者とその家族に対して、過去や背景を理解し、コミュニケーションをとることが重要であるという気づきがあり、家族への関わり方を見直していくきっかけとなったのではないかと。

☆ 多職種連携

<気づき>

- ・自分だけでは見えてこない部分がたくさんある。
- ・1人で悩まず、いろんな立場の方の意見を聞くことで気持ちが落ち着いたり、悩みが少なくなったりすることが分かった。
- ・自分だけの意見、考えでは限界があるし、本当に、利用者に対して満足のいくサービスは出来ないのでは。
- ・他の人の意見を聞くことで世界、価値観が広がりました。
- ・いろいろな考え方がありながらも、みんながんばっていると感じた。
- ・サービス事業所と居宅がお互いに頼りにしていることが分かりました。
- ・困難なケースでも多職種の連携を取ることで各々の得意分野を生かした関わりを通じて解決の糸口がつかめることがある。
- ・ケアマネ1人で突き進むのではなく意見を求めていくことが大切。
- ・何でも話せるような関係作り、信頼関係を築いていくことが大切だと思った。
- ・一つ一つのところでは思い込みなどがある
- ・ケアプランだけでなく、こんな言葉かけがうまくいったよ、とか言う情報交換が出来ることも、多職種連携になるということ。
- ・援助側の価値観で判断しない。
- ・ケアマネ以外と連携することで、チームで利用者を支えることが大事だと思った。
- ・異なる職種の立場から、問題となる事柄もまた違うということが良く分かった。
- ・それぞれのサービスからアプローチの方法を持っていることが分かった。
- ・自分の対応が最終的にこれでいいのか、他の意見を聞いて確認できて新たな気持ちでケースに向かっている。
- ・やはり解決はチームのメンバーに相談すること。
- ・グループホームでのケアマネをしています。居宅の方の事例がとても参考になりました。
- ・利用されている施設の職員や、福祉用具の人はその人のことをよく知っている人ということが分かった。
- ・ケアマネさん良くがんばって見えるなと思いました。
- ・デイやショートなど現場をもっと知りたいと思います。
- ・デイサービス等、現場の職員は大変だと痛感した。
- ・サービスがつながっていると感じられました。

<今後>

- ・包括にも相談してほしい。
- ・デイだから分かる気づきを積極的にケアマネに伝えていきたい。逆にケアマネだから分かることを自分が聞き取っていきたい。
- ・話しやすく、良い関係を作ることでチームケアが出来るので、意見や提案を取り入れていきたいと思いました。
- ・通所の方からもっと居宅の方などに情報提供をしていきたい。
- ・ケアマネさんには遠慮があって、十分な情報提供を控えていたことがあったが、これからは十分提供したい。
- ・定期的に意見交換を行える場が持てると良いと思った。
- ・どの立場からも気軽に思いを出せる雰囲気やケアマネが率先して作っていくと多職種のよさが生きてくる。

- ・事業所同士で、めげないようにフォローしあうことも大切だと思った。1人で考えていると悩んでしまう。
- ・ケアマネジャーに現場の問題（課題）などを伝えていく。
- ・サービス事業所、デイ、ヘルパー、福祉用具の方は忙しそうで、サービス担当者会議に来ていただくのに躊躇しますが、どうなのか聞いてみたいです。
- ・サービス担当者会議や地域ケア会議の前にしっかりと再アセスメントをして、事業所と情報共有を行う。

事例を基に具体的な話をしていくなかで、多職種連携の重要性を改めて確認でき、今後は多職種で話し合う機会を作ることに積極的な意見が多かった。

☆ 研修会について

<今後>

- ・現場の職員が気軽に参加できる研修をもっと増やして欲しいです。
- ・ケアマネは月末特に忙しいので、できれば中旬でお願いします。今月は特に負担割合のことがあり時間の調整に苦慮しました。

☆ 自己反省

<気づき>

- ・ケアマネは聞き上手でないと、私自身はどうかなと反省した。
- ・提案が要らないお世話になっていないか？
- ・ケアマネとしてサービス担当者会議を行ってきたが、サービス事業所の関わりを生かしきれていないと感じた。
- ・自分の仕事ぶりの反省ができた。
- ・改善点ばかりを見てしまい全体的な関わりを理解していなかったことが他の方の意見を聞いて分かった。

<今後>

- ・いろんな事例にふれたい。
- ・訪問、電話等で積極的に関わろうと思った。
- ・個別援助計画をもう一度見直す
- ・自分のかかわりのある利用者、介護者の顔を思い浮かべ、今まで気づかなかったこと、配慮をしていなかったことを見つめなおしていく。
- ・相手の気持ちになりきる。
- ・今後、よく話を聞いて心を開いてもらうようにする。
- ・ケアマネとして、なんでも1人で解決するのはやめ、相談しようと思う。
- ・恥のかき捨てで、いろいろな人たちに聞く。
- ・私たち側の価値観を押し付けないで個々のスタイルを尊重する、長い目で見る
- ・急いでやるのではなくゆっくりとやっていくことが大事
- ・1人で訪問をし、その場で判断が必要なこともあるので、いろいろな方の意見を自分のレポーターにして、今後も業務にあたりたいと思った。
- ・ケアマネが主に会議を進めていくことが多いと思うが、進行を上手に、また、まとめていける力が必要だと思った。

自分の仕事について見直すだけでなく、相手（利用者や家族）へのかかわり方についても見直していきたいという意見があった。

☆ サービス担当者会議

<今後>

- ・現在も担当者会議でサービス利用時の様子や本人の意向、希望等伺いプランに反映したいと思っている。今後はもっと濃い会議にしていきたいと思う。
- ・担当者会議での連携を強められるように中身の濃いカンファレンスを行いたい。
- ・担当者会議等でも、多職種連携ができるよう有意義なものにしていきたい。
- ・サービス事業所からの意見を大切にして、参考に出来るところを取り入れていきたい。担当者会議をもっと意義の在るものにしていきたい。
- ・担当者会議において、皆さんの意見を幅広く聞きたい。
- ・サービス担当者会議で意見をしっかり伝える。答えは現場にある。

多職種連携でケアをしていくために、まずはサービス担当者会議の内容を充実させることから始めたいという意見が多くあった。

○そのほかに意見などありましたらお願いします。

☆ 感想

- ・テーブルを同じくすることで今後の連携が取りやすい、ありがたい。
- ・事例検討会で、楽しく学べました。良かったです。
- ・参加できてよかったです。ありがとうございました。
- ・皆さん大変なんだと思いほっとしました。がんばります。
- ・ケアマネになって 4 ヶ月がたち、今日の研修がとてもよく分かりました。介護している人の支援を大切にしていきます。ありがとうございました。
- ・ステップアップできたか疑問
- ・デイサービスでの関わり方を改めて見直すきっかけとなった。
- ・機会があれば、研修会に積極的に参加したい。
- ・今後、このような機会があれば参加していきたい。
- ・その場で解決（答え）を見つけるのではなくたくさんの意見の中で一番いい方法を見出していく姿勢が必要だと感じます。
- ・自施設でも、地域ケア会議は開催されているが、毎回参加とはいかないものの他職種とのつながりをつくり話しやすい環境を今後に向けて作っていただけるよう、積極的に参加していきたい。
- ・ケアマネは介護サービス以外でも関わることが多いが、どこまで支援すべきなのか、線引きが難しい。
- ・本当にグループで真剣に考え、自分の担当者の具体例も聞けてとても良かった。
- ・課題については担当ケアマネが本当に良くがんばって対応していると思う。